

(3) 古城池高校プラットフォームとの連携

コンソーシアムに高校生を！

岡山県立倉敷古城池高等学校 教諭 平松 恵子

まず、2018年のコンソーシアム設立時からずっと本校に学びの機会をいただいていることを心から感謝したい。学校の活動は知識注入型の活動になりやすい。探究学習でさえ調べ学習が主となりがちだ。しかし、コンソーシアム（コンソーシアム以前の活動も含めて）から提案していただく活動には、それらとは質的な違いがある。

1つ目はトータルな経験だ。まずは、現場を見ること、そして、校種や年齢を越えて課題について共に考えること。昨年の「真庭のバイオマスツアー」では、見学に加えて、環境と自分とが繋がっていると実感できる講座を真庭高校の生徒と共に受けることができた。海ゴミや海の生き物調査では、名前も存在すらも知らなかった生物との出会いがあり、倉敷南高校や県外の高校と調査や意見交換する機会もあった。そして特筆すべきは、専門的な知見に生徒達が触れる機会を持てる点だ。専門の先生方のお話を伺い、学問分野の最先端を知り、世の中で必要とされている最適解の探し方に触れられる経験は得がたいものだ。最後は報告の場である。年度末のシンポジウムでの報告は、振り返って意味づけしなければ、日常に紛れ、埋もれて、自分でさえも気づけなくなってしまう意義を結晶化する機会が得られる。地域の皆さんの前で報告することで、多くの学びが「自分事」となっていく、生徒がぐんぐん成長する姿は驚くほどだ。それら一連の学びがトータルに提供していただけることのすばらしさを毎年実感している。事務局の「みずしま財団」の方々をはじめ、関係の皆さまからのお心添えがあつてのことだと感謝している。

2つ目は、生徒の「幸せ」につながる学びである点だ。地域活動をしている人は孤独を感じにくいと言われているが、生徒も同様だ。一緒



ウミナナ類とツボミガイの個体数調査。岡山県版レッドデータブック 2020 で準絶滅危惧種に指定されているウミナナやツボミガイが、通生海岸にはたくさん生息している。



磯での生物調査の様子。岩をひっくり返すだけでたくさんの生物が見つかる。

に調査し、成果を分かち合い、聞いていただけることで、一人ではないということを実感する。自我を形成する思春期まっただなかの彼等にとって、他とは違う「私」を証明することは重要なことだが、他と違うということは、「孤独」だということでもある。ところが、地域で受け入れられた生徒には、はっきりと見て分かるほど心の余裕が生まれる。学校と家庭と地域の中に自分を置くことで心のスペースが生まれるのかもしれない。

海の現状を共に見た、こども食堂で一緒に作ったカレーライスを食べた、自分の提案や感想を聞いていただいた、パーキングデーで空間利用について考察した、等々。学校とは違う生々しい現実が生成する「場所と時間と思い」を共にした記憶が、参加者を一人にさせない。後から考えると、それらは、海の未来に対する専門家からの警鐘だったり、福祉の最前線で戦うNPOの支え合いへの誘いだったりするのかもしれない。しかし、意味を知るのは後でもかまわない。「一人ではない」ことが、次の一步を踏み出す原動力になる。分かち合う時間こそが「幸せ」だからだ。

最後は教員の学びとなる点だ。本校では、学区外に住む教員も多く、地域のことについて知識も経験も乏しい。学びの主体が生徒であるのは自明のことだが、教員の成長や多様性も重要な側面だ。近代化に伴って置かれた「学校」には価値ある教育を公平に提供する使命がある。しかし、教育は、機械による製品の製造ではない。看護の「ヒューマンケアリング」と同様に、教育においても、両者が共に成長することが求められる。地域に出て行った生徒の思いと、伴走する教員との響き合いによって多様な結果が生じる。しかも、それは一瞬のことではない。長い、長い時間を生徒と共に過ごしなが、生徒が「ああ、わかった！そうだったのか！」というときに起こる空気の弾み、発見したり、成長したりするときのとてつもないパワーを全身に浴びるときの幸せ、それらが教員を作っていく。地域の方々に見守られながら、生成する事態と共に成長すること、その意味で、教員も学びの主体なのだ。

今後も、生徒と教員の多様な学びを支えていただけるコンソーシアムの存在に感謝しながら活動していきたい。



パネルディスカッション



水島の歴史の発表



水島・藤戸バスツアーの発表

(2) FMくらしき

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム 副会長 古川明

(毎月、第3金曜日の15:45～16:00)

「みみみずしま財団～エコラボフライデー」というコーナー)

1 去年の11月から、水島財団の提供するFMくらしきの放送枠をお借りして、月1度古城池高校生と一緒に番組に出演させて頂き、高校生達の地域連携活動を中心とした話を、大谷アナの名司会で聞かせてもらっています。出演してくれた生徒さん達は、ラジオ初出演と言うこともあって、番組収録が始まるまでは、いささか興奮気味ですが、一たび、放送が始まると、生徒さん達の表情は一変、弁舌爽やかで澁むことのない澁瀨とした話術を、毎回披露してくれるので、舌を巻くばかりです。是非、お時間ある時に、耳を傾けてみてください。

以下に、これまで2回、出演してくれた吉田由良さんの感想文をお届けします。

～FMくらしきに出演して～

「私は、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム副会長の古川さんの口添えにより、学校から指名され、FMくらしき（水島財団提供「みみみずしま財団～エコラボフライデー」という番組）に出演しました。

放送局には、目の前にマイクが何本もあって、スタッフの方がいて、そのスタッフの方々は私のことを知ろうとしてくれてたくさんの質問をなげかけてくれるという、私にとって不思議な光景でした。

2度、出演する機会を頂きましたが、最初の出演では、放送局でご紹介する内容を紙にまとめ、その内容に沿って、上手く伝えようとするばかりを心がけていましたが、2度目は、ラジオはその場にいるスタッフの方々とのお話を楽しむことに意味があって、誰かにプ



古川氏と古城池高校の生徒達



古城池高校3年 吉田由良さん

レゼンをする堅苦しい場では無いということが認識できたので、話すべき話題のみをメモして出演しました。

そのように判断したことによって、結果的に、その場にいるスタッフの方々とのお話を純粹に楽しむことができ、とても楽しく有意義な時間となりました。

番組収録の中で、特に印象的だったのは、私が「ボランティア・スピリット・アワード」というコンテストに出場させていただいたことがきっかけで、米国ボランティア親善大使に選ばれ、米国授賞式に出席した体験談を話させてもらった時のことです。

当日の番組収録では、私の周りにいたスタッフの方々が興味津々に私の活動内容や、米国授賞式で何を感じたかなどたくさんの質問をなげかけてくれて、30分程度の持ち時間を大幅に超え、2時間近くお話をさせてもらうことになりました。

こんな経験を通じて私は気づきました。話す時にシナリオは必要ない。自分には、自分の言葉でしっかりと伝えることのできる力があるのだということ！

以上のとおり、高校生の立場で、初めてラジオに出演するという貴重な機会を頂き、最初は「ラジオは現代っぽくない」と思っていたのですが、生で温かいアナウンサーの声が聞ける点や話を聞いているだけで微笑むことが出来る、そんなラジオ放送にはまってしまい、今ではラジオが無料で聞けるアプリをインストールして、毎朝必ず聞いて、明るい気持ちで毎日をスタートすることが出来ています。」



ラジオ出演する古城池高校の生徒達



【FMくらしき番組収録の記録】						
～ 古城池高校の活動報告～						
番号	収録日	収録内容			参加生徒数	放送日
【2021年】						
1	11月6日	こども食堂（高校生企画関連）			2名	11月9日
2	12月14日	フードロス対策関連			4名	12月17日
【2022年】						
3	1月18日	福田公民館との連携（高校生と考える講座）			4名	1月21日
4	2月1日	海岸の生物・ゴミ調査			4名	2月4日
5	3月9日	ツアープラン（源平水島合戦）			3名	3月12日
6	5月10日	ボランティアスピリッツアワードで米国親善大使に選出されて			1名	5月13日
7	6月15日	探究活動プレゼンテーションアワードでグランプリ受賞 「児島の海岸の生物多様性～指標生物を用いた分析～」			2名	6月17日
8	7月13日	「アートであそぼう！～自分だけのうちわづくり～」			3名	7月15日
9	10月17日	二福・四福小学校での学習ボランティアに参加して			2名	10月21日
10	11月14日	ソーシャルバンクとコノヒトカンプロジェクトに参加して（ESS）			2名	11月18日
11	12月13日	高校生ボランティアアワード特別賞受賞（猿田彦珈琲賞）			2名	12月16日
【2023年】						
12	1月18日	水島・藤戸バスツアーガイド			4名	1月20日
13	2月6日	源平藤戸合戦について			2名	2月17日
14	3月14日	「瀬戸内海 海ごみプラごみ削減フォーラム in おかやま」に参加			4名	3月17日